

[共通教育課程]

生活外国語

—ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、
日本語、ロシア語、アラビア語、ベトナム語—

生活外国語

1. 追求する人間像

わが国の教育は弘益人間の理念の下、全ての国民をして、人格を陶冶し、自主的な生活能力と民主市民として必要な資質を備えしめ、人間らしい生を営為せしめ、民主国家の発展と人類共栄の理想を実現するのに寄与せしめることを目的としている。

このような教育理念を土台として、この教育課程が追求する人間像は以下のとおりである。

- ア. 全人的成長の基盤の上に、個性の発達と進路を開拓する人間
- イ. 基礎能力の土台の上に、新たな発想と挑戦で創意性を発揮する人間
- ウ. 文化的素養と多元的価値に対する理解を土台に、品格ある生を営む人間
- エ. 世界と相通じる市民として、配慮と分かち合いの精神で共同体の発展に参与する人間

2. 中学校の教育目標

中学校の教育は小学校教育の成果を土台にして、生徒の学習と日常生活に必要な基本能力を培い、多元的な価値を受容し尊重する民主市民の資質涵養に重点を置く。

- (1) 健康で調和のとれた心身の発達を追求し、多様な分野の経験と知識を身につけ、積極的に進路を探索する。
- (2) 学習と生活に必要な基礎能力と問題解決力を土台に、創意的思考力を育てる。
- (3) 自らを取り巻く世界に対する経験を土台に、多様な文化と価値に対する理解を広げる。
- (4) 多様な疎通能力を育て、民主市民としての資質と態度を備える。

3. 内容の体系

領域	内容	
言語的 内容	言語技能	・ 「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」活動をバランスよく展開できるよう、各領域別の内容を提示

	言語材料	<ul style="list-style-type: none"> • 発音および綴り（文字）：発音と綴り（文字）に関する内容を提示 • 語彙：高等学校一般科目第二外国語教育課程の基本語彙のうち、300語程度を履修 • 文法：意思疎通基本表現に用いられた文法事項を参考 • 意思疎通基本表現：基礎外国語の学習に適切な内容
文化的 内容	<ul style="list-style-type: none"> • 当該外国語言語圏の日常生活文化と関連した内容 • 当該外国語言語圏の言語文化と関連した内容 • 当該外国語言語圏の社会文化と関連した内容 	

4. 生活外国語教育の目標

21世紀は世界が一つの垣根の中で共存する生を追求する、まさに「地球村」時代である。交通手段と情報通信技術の画期的な発展で、世界が一日生活圏になりつつある今日、国家及び文化圏の間の交流はさらに頻繁になり、交流成功のための相互理解の必要性はより切実になっている。このような時代の潮流は、政治的・経済的・社会的に密接な関係を保っている主要国家の言語・文化教育に対する必要性とともに、早期外国語教育に対する需要を拡散させている。

国民共通の履修課程である中学校教育課程に「生活外国語」を編成するようになったのは、こうした時代思潮と社会的な要求を反映したものである。「生活外国語」には、全世界数十億の人口が母国語または第二言語として使用している主要言語である「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「日本語」、「ロシア語」、「アラビア語」に続き、「ベトナム語」が追加されることで8つの外国語に拡大し、名実ともに多重言語・多重文化教育を標榜するようになった。

学校で行われる外国語教育は、言語技能の練磨という実用的価値以外に、人格の成長という教育的価値に対する考慮がなければならない。「言語とは文化を照らす鏡」ということばが意味するごとく、外国語を学ぶということは、もう一つの文化に対する眼を持つことになるということの意味するからである。外国語学習を通して得られた言語と文化に対する知識を土台に、外国人と積極的にコミュニケーションしてみようという積極的な生活態度を養い、地球村時代を生きていく市民意識を目覚めさせることが、「生活外国語」が志向する教育的目標である。感受性の鋭い青少年期に接する「生活外国語」を通じて、学習者は互いに異なるものごとに対する肯定的な価値観を持つようになることで、世界の中の韓国人として生きていくのに必要な基礎的素養を養うことができる。

言語使用能力と関連して、「生活外国語」は、当該外国語を初めて学ぶ学習者たちが基礎的なコミュニケーションに必要な、必須的言語材料を規定し、その目録を提示している。必須言語材料の学習を通して、当該当該外国語使用者とのコミュニケーションの基礎を準備し、上級学校に進学して当該当該外国語を持続的に学習することができる言語的素養を養うことが、「生活外国語」教科の一般目標である。言語技能、文化、態度別に分けた細部目標は次のとおりである。

ア. 言語技能

(1) 聞く

- (ア) 発音の違いを区別して聞く。
- (イ) 簡単な単語を聞いて理解する。
- (ウ) 簡単な文を聞いて理解する。
- (エ) 簡単な対話を聞いて理解する。

(オ) 簡単なことばを聞いて行動する。

(2) 話す

(ア) 発音を聞いて正確にまねする。

(イ) 簡単な単語を聞いて、後について言う。

(ウ) 簡単な文で対話をする。

(エ) 簡単なことばで事物や状況を説明する。

(オ) 簡単なことばで感情や意思を表現する。

(3) 読む

(ア) 綴りまたは文字に対応する音の体系または音声的特性を理解し、正しく発音する。

(イ) 単語のアクセントを生かし、文章を正しく読んで理解する。

(ウ) 文のイントネーションを生かし、文章を正しく読んで理解する。

(エ) 日常生活と関連した短く易しい文章を読み、ジャンルおよび素材を把握する。

(オ) 日常生活と関連した短く易しい文章を読み、キーワードとテーマを把握する。

(4) 書く

(ア) 綴りまたは文字符号と、音声的特性に留意しつつ、単語を正確に書く。

(イ) 簡単な文の空欄を埋め、文を完成する。

(ウ) 簡単な文または段落単位の文章を聞いて書き取る。

(エ) 日常生活と関連した短く易しい内容を、文で表現する。

(オ) 実物と類似した簡単な書式に必要な情報を埋め、完成する。

イ. 文化

(1) 外国語学習を通して、当該言語圏の日常生活文化と言語文化を理解する。

(2) 当該言語圏の主要な社会、歴史、芸術などに対し関心を持つ。

(3) 当該言語圏に対する文化理解を通して、コミュニケーション能力を向上させる。

(4) 外国文化と韓国の文化の比較を通して、文化の普遍性と特殊性を認識する。

ウ. 態度

(1) 外国語でコミュニケーションをしてみようという積極的な態度を持つ。

(2) 外国文化に対して関心を持ち、自ら知ってみようという態度を持つ。

(3) 外国文化を理解することで韓国の文化を新たに認識し、正しい価値観を持つ。

(4) 外国文化の理解を通して、相対的な視角で韓国の文化を新たに眺める。

(5) 外国文化に対する理解を通して、地球村市民が持つべき正しい価値観を持つ。

5. 科目別達成基準

(原文以下ドイツ語セクション：省略)

<日本語>

ア. 言語的内容

(1) 言語技能

(ア) 聞く

- ①日本語の音声的特徴を聞き、正確に区別する。
 - 一清音、濁音、半濁音、拗音、促音、撥音、長音、短音を注意して聞き、区別する。
 - 一日本語のリズム、拍、イントネーションを聞き、正確に区別する。
- ②短く易しい日本語を聞いて区別する。
 - 一「おいしい!、がんばれ!」など簡単な文句を聞いて理解する。
 - 一日常生活と関連した語彙を聞いて区別する。
 - 一自分の家族、他人の家族についての呼称を聞いて区別する。
 - 一時間、単位と関連した語彙を聞いて区別する。
- ③簡単な教室用の日本語を聞き、適切に行動する。
 - 一「きいてください、はなしてください、よんでください、かいてください」など、教室で用いられる簡単な日本語を聞き、適切に行動する。
- ④あいさつ、紹介などと関連した簡単な対話を聞き、理解する。
 - 一時刻や状況に応じた出会い、別れと関連したあいさつ表現を聞き、これに適切に反応する。
 - 一安否、外出、訪問、お祝いなどの状況でなされるあいさつ表現を聞き、これに適切に反応する。
 - 一食事時のあいさつ表現を聞き、これに適切に反応する。
 - 一自己紹介、家族の紹介、他人の紹介時の儀礼的な表現を聞き、理解する。
- ⑤配慮および態度伝達の表現と関連した対話を聞き、これに適切に反応する。
 - 一感謝、謝罪、ほめ、激励などと関連した対話を聞き、これに適切に反応する。
 - 一承諾・同意、拒絶、断り、謙遜、遺憾などと関連した対話を聞き、これに適切に反応する。
- ⑥情報の要求と関連した対話を聞き、これに適切に反応する。
 - 一場所、時間・ときなどに関する具体的な情報の要求を聞き、これに適切に反応する。
 - 一選択、比較、状況・事情などに関する具体的な情報の要求を聞き、これに適切に反応する。
 - 一趣向、能力・可能、経験などに関する情報の要求を聞き、これに適切に反応する。

する。

⑦行為の要求と関連した対話を聞き、これに適切に反応する。

一依頼、勧誘、許可の要求、警告などに関する表現を聞き、状況と話者の意図を判断して適切に反応する。

⑧対話の進行と関連した対話を聞き、これに適切に反応する。

一話しかけ、ためらい、あいづち、聞き返しなどの表現を聞き、これに適切に反応する。

⑨対話の相手の地位や親密度に応じた表現の違いを聞き、理解する。

一対話の相手との上下関係、親疎関係などに応じた表現の違いを聞き、理解する。

(イ) 話す

①日本語の音声的特徴を正しく聞き、後について言う。

一清音、濁音、半濁音、拗音、促音、撥音、長音、短音を正しく聞き、後について話す。

一日本語のリズム、拍、イントネーションを聞き、後について言う。

②あいさつ、紹介などと関連した簡単な対話をする。

一時刻や状況に応じた出会い、別れと関連したあいさつ表現を、対話の流れに合わせて話す。

一安否、外出、訪問、お祝いなどの状況でなされるあいさつ表現を、対話の流れに合わせて話す。

一食事時のあいさつ表現を話す。

一自己紹介、家族の紹介、他人の紹介時の儀礼的な表現を、対話の流れに合わせて話す。

③配慮および態度伝達の表現と関連した簡単な対話をする。

一感謝、謝罪、ほめ、激励などと関連した表現を、対話の流れに合わせて話す。

一承諾・同意、拒絶、断り、謙遜、遺憾などと関連した表現を、対話の流れに合わせて話す。

④情報の要求と関連した簡単な対話をする。

一場所、時間・ときなどに関する具体的な情報の要求と関連した表現を、対話の流れに合わせて話す。

一選択、比較、状況・事情などに関する具体的な情報の要求と関連した表現を、対話の流れに合わせて話す。

一趣向、能力・可能、経験などに関する情報の要求と関連した表現を、対話の流れに合わせて話す。

⑤行為の要求と関連した簡単な対話をする。

一依頼、勧誘、許可の要求、警告などに関する表現を、対話の流れに合わせて話す。

⑥対話の進行と関連した表現を、対話の流れに合わせて適切に話す。

一話しかけ、ためらい、あいづち、聞き返しなどの表現を、対話の流れに合わせて適切に話す。

⑦対話の相手の地位や親密度に応じた表現の違いを知り、対話の相手が理解できるように話す。

一対話の相手との上下関係、親疎関係などに応じた表現の違いを認知し、対話の相手が理解できるよう、適切に話す。

(ウ) 読む

①ひらがなとかたかなを正しく読み、理解する。

一ひらがな、かたかなを読み、身につけるために様々な遊びをする。

一ひらがなとかたかなが用いられた文を読み、その使い方の違いを理解する。

②日本語の音声的特徴に留意して文を読み、理解する。

一清音、濁音、半濁音、拗音、促音、撥音、長音、短音に留意して文を読み、理解する。

一日本語のリズム、拍、イントネーションに留意して文を読み、理解する。

③メモ、ハガキ、カードなどの簡単な文章を読み、理解する。

一お祝いカード、お知らせ、招待状を読み、内容を把握する。

一簡単な説明書を読み、内容を把握する。

④インターネットで易しく簡単な文章を探して読み、理解する。

一ホームページ、ブログなどに現れた簡単な文章を読み、内容を理解する。

⑤日本文化と関連した易しく簡単な文章を読み、理解する。

一「文化的内容」と関連した易しく簡単な文章を読み、その内容を理解する。

⑥コミュニケーション機能と関連した、短く易しい文章を読み、理解する。

一コミュニケーション機能が含まれた文章を読み、その意味を理解する。

(エ) 書く

①ひらがなとかたかなを正しく書くことができる。

一ひらがな、かたかなの書き順に合わせ、正しく書く。

②学習用漢字を正しく書くことができる。

一学習用漢字を書き順に留意して正しく書く。

一韓国で用いられる漢字と日本で用いられる漢字を区別して、正しく書く。

③学習した単語や簡単な文を聞き、正しく書く。

一基本語彙表に現れた単語を聞き、書く。

一簡単な教室用の日本語、簡単なあいさつことばなどを聞き、正しく書く。

- ④簡単なメモ、ハガキ、電子メールなどを作成する。
—お祝いカード、招待状、年賀状などの内容を、状況に合うように適切に作成する。
—携帯電話の文字メッセージ、電子メールなどで簡単なメッセージを作成する。
- ⑤日常生活と関連した易しく簡単な文章を書く。
—一日の日課を日記の形式で簡単に書く。
- ⑥コミュニケーション機能と関連した、短く易しい文章を書くⁱⁱ。
—コミュニケーション機能が含まれた文章を聞き、正しく書く。

(2) 言語材料

(ア) 発音および文字

- ①発音は現代日本語の標準発音を基本とする。
- ②かなの表記は「現代かな遣い」に従う。
- ③漢字表記は高等学校一般科目「日本語」の教育課程【別表 II】に提示された学習用漢字を用いるが、可能な限りかなで表記する。

(イ) 語彙

高等学校一般科目「日本語」の教育課程【別表 II】に提示された基本語彙を中心に、300語程度を用いる。

(ウ) 文法

- ①文法は、以下の「意思疎通基本表現」を理解し活用できる範囲内で、なるべく易しい基本文法事項のみを扱う。
- ②日本語教育において用いられる現代日本語文法に従う。

(エ) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現は、コミュニケーション能力を効率的に養えるようにし、以下に示す「意思疎通基本表現」を積極的に活用する。

【意思疎通基本表現】

- 以下は生活日本語の教育課程において、優先的に扱うことを勧める意思疎通基本表現である。ここに示されなかった例示文も用いることができる。
- ここに示された意思疎通基本表現は、対話展開の過程で必要なコミュニケーション機能別表現であり、状況とレベルに応じて活用することができ、文法事項も参考にすることができるよう、示したものである。

1. あいさつ

- (ア) 出会い おはよう。／おはようございます。
こんにちは。
こんばんは。
きのうはどうも。
ひさしぶり。／おひさしぶりです。
- (イ) 別れ じゃ (あ) ね。
バイバイ。
またあした。
では、また。
さよ (う) なら。
げんきでね。／おげんきで。
では、しつれいします。
おやすみ。／おやすみなさい。
- (ウ) 安否 げんき？／おげんきですか。
- (エ) 外出 いきます。
行って (い) らっしゃい。
- (オ) 帰り ただいま。
おかえり。／おかえりなさい。
- (カ) 訪問 こんにちは。
ごめんください。
いらっしゃい。
どうぞ。
しつれいします。
おじゃまします。
- (キ) 食事 いただきます。
ごちそうさま。／ごちそうさまでした。
- (ク) お祝い おめでとう。／おめでとうございます。

2. 紹介

- (ア) 自己紹介 こんにちは。
はじめまして。
キム・ヒョジンです。
かんこくからきました。
どうぞよろしくおねがいします。

- こちらこそよろしくおねがいします。
- (イ) 家族の紹介 ははです。
わたしの ちちです。
- (ウ) 他人の紹介 こちらは さとうさんです。
ともだちの たなか(さん)です。

3. 配慮および態度の伝達

- (ア) 感謝 どうも。
(どうも) ありがとう。 / (どうも) ありがとうございま
す。
- (イ) 謝罪 (どうも) すみません。
ごめん。
- (ウ) ほめ にほんご、じょうずですね。
すごいですね。
センスいいね。
- (エ) 激励 がんばれ。 / がんばってね。 / がんばってください。
なかむらさんならできますよ。
だいじょうぶだよ。
- (オ) 承諾・同意 はい、わかりました。
うん、いいよ。
はい、どうぞ。
ええ、そうしましょう。
- (カ) 拒絶 すみませんが、あしたは ちょっと……。
どうぶひはちょっとようじが あって……。
- (キ) 断り いえ、けっこうです。
ぼくはもういいよ。
- (ク) 謙遜 そんな こと ありませんよ。
- (ケ) 遺憾 わあ、ざんねん。

4. 情報の要求

- (ア) 存在 あかいペンある？
- (イ) 場所 トイレはどこですか。
- (ウ) 時間・とき テストは いつからですか。
いま、なんじ？
- (エ) 選択 なにがいい？
- (オ) 比較 バスとでんしゃとどちらがはやいですか。

- にほんでどこがいちばんさむいですか。
- (カ) 状況・事情 なんじごろがいいですか。
あしたはどう？
- (キ) 趣向 どんなスポーツがすきですか。
- (ク) 能力・可能 からいものはたべられますか。
- (ケ) 経験 すもうをみたことがありますか。
- (コ) 確認 コンサートは7じからですね。

5. 行為の要求

- (ア) 依頼 すみません。ちょっとまってください。
そのほん、かしてくれない？
- (イ) 指示 あしたは8時までに来てください。
ひろし、早く食べて。
こちらにお名前をお書きください。
- (ウ) 勧誘 あしたえいがをみにいきませんか。
よかったら、いっしょにいかない？
おちやをどうぞ。
このシャツはどう？
- (エ) 許可の要求 ハングルでかいてもいいですか。
- (オ) 警告 あ、あぶない！
きをつけて！

6. 対話の進行

- (ア) 話しかけ あの(う)。
すみません。
ちょっといいですか。
- (イ) ためらい ええと。
う～ん、そうですね。
- (ウ) あいづち ええ、そうですね。
あ、そうですね。
うん。
ほんとう？
- (エ) 聞き返し なに？

イ. 文化的內容

- (1) 意思疎通基本表現と関連した日本人の言語行動文化を、コミュニケーションの状況に適用して理解し、表現する。

- (ア) 言語行動に関する内容：表現的特性、あいづちなど
 - (イ) 非言語行動に関する内容：身ぶり、手ぶりなど。
- (2) 日本人の日常生活文化を、コミュニケーションの状況に適用して理解し、表現する。
- (ア) 家庭生活に関する内容：あいさつ、訪問時のマナー、家庭内の生活文化など
 - (イ) 学校生活に関する内容：サークル活動など
 - (ウ) 服飾の文化に関する内容：衣服の種類など
 - (エ) 食文化に関する内容：食べ物の種類、食事時のマナーなど
 - (オ) 居住文化に関する内容：住宅事情など
- (3) 日本人と日本社会をよく反映している伝統文化と大衆文化を、コミュニケーションの状況に適用して理解し、表現する。
- (ア) 年中行事に関する内容：「まつり、おしょうがつ、ひなまつり、おぼん、しちごさん」など
 - (イ) 伝統芸術に関する内容：「さどう、かぶき」など
 - (ウ) 遊びの文化に関する内容：「はなみ、はなび」など
 - (エ) 大衆文化に関する内容：マンガ、アニメーションなど
- (4) 次の事項に留意して、文化的内容を構成する。
- (ア) 内容は実用的なものとするが、最近の資料を基準として構成する。
 - (イ) 学習者の興味、必要性、知的水準などを考慮して、学習意欲を高めることのできる内容とする。
 - (ウ) 言語表現と関連した素材の領域は、上に示した「意思疎通基本表現」内の項目を参考に、この表現が適切な脈絡の中で活用されるよう構成する。このように、特定の素材領域と関連した適切な表現方式が自然に習得されるようにする。
 - (エ) 文化内容を説明する際、必要な場合には韓国語を用いることができる。
 - (オ) 日本の日常生活および社会文化を正しく理解し、これを韓国の文化と比較して、相違点と共通点を認識するよう、内容を構成する。

6. 教授・学習方法

ア. 一般指針

- (1) 「生活外国語」の授業はなるべく当該外国語で進めるようにする。
- (2) 教授・学習の最終目標が、言語形態の学習ではなく、コミュニケーション機能の学習になるよう、教授・学習の計画を立てる。

- (3) 新しい内容の理解と習得、適用が容易となるよう、授業を段階別（学習の準備段階、学習の段階、学習後活動の段階）に組織する。
- (4) 学習者の必要性和知的発達を考慮して、螺旋型に学習進度を構成する。
- (5) 必要に応じて、教科書の内容を再構成し用いることができる。
- (6) 言語の 4 技能のうち、できれば二つ以上の技能を連係させて、教授・学習計画を立てる。
- (7) 教授・学習に助けとなる場合、様々な視聴覚資料及びマルチメディア教材・学習資料を活用する。
- (8) 学習者の興味を高めるために、ロールプレイ、ゲーム、シミュレーション、歌など、様々な学習リソースを活用する。
- (9) 重大な誤りでなければ、その場での修正は避ける。
- (10) 暗記式の授業ではなく、学習者の創意力を向上させ、人間性を涵養する方法を模索し活用する。

イ. 言語技能

- (1) 聞く
 - (ア) 簡単な文を聞き、その指し示すところを行動に移してみるようにする。
 - (イ) 単語および簡単な表現の聞き取りから、文の聞き取り、対話の聞き取りへ拡張する。
 - (ウ) テーマやキーワードを中心に、コミュニケーションの意図を把握し、全般的な意味を理解させる。
- (2) 話す
 - (ア) ネイティブスピーカーの発音を聞き、正確に後について話すようにする。
 - (イ) 日常生活と関連した簡単な意思疎通基本表現を多く用いるようにする。
 - (ウ) ロールプレイ、ゲーム、シミュレーションなどを通して、学習した内容を実際のコミュニケーションの状況に適用する機会を多く持つようにする。
- (3) 読む
 - (ア) 日常生活と関連した内容の文章や対話文を、発音、アクセント、イントネーションなどに留意しつつ、声に出して読むようにする。
 - (イ) 簡単な文章や対話文を読み、テーマ、要旨、大意などを把握するようにする。
 - (ウ) 日常生活と関連した簡単な内容を含む広告文、ポスター、道路標識、公共の案内文などを読み、意味や要旨を把握させる。
- (4) 書く

- (ア) 聞いて書きとる練習を可能な限り多くするようにする。
- (イ) 日常生活と関連した内容の文章や対話を、綴り、句読点などに留意して書いてみるようにする。
- (ウ) 日記、手紙、ブログ、カード、電子メールなど様々な形式で、自身に関する文章を書いてみたり、伝達しようとする情報を作成するようにする。

ウ. 文化

- (1) 韓国の文化と各言語圏の文化の共通点と相違点を客観的に理解できるようにする。
- (2) 固定観念や知識中心の学習よりは、文化の多様性と個別性を発見できるようにする。
- (3) 絵、写真、動画など、リアリティのある様々な資料を活用して創意力を高め、学習の動機と興味を誘発する。
- (4) 学習者の能動的な参加のために、授業で扱われる文化と関連した内容を、個人別あるいはグループ別に調査し、発表するようにする。

7. 評価

ア. 評価指針

- (1) 言語材料と「意思疎通基本表現」に記述した内容を中心に、基本的で重要な事項を評価する。
- (2) 学習した内容を中心に、聞く、話す、読む、書く能力を均等に評価する。
- (3) 二義的で例外的な事項の評価よりも、言語能力を総合的に評価する。
- (4) 単純な暗記中心の評価ではなく、理解と活用能力に重点を置いて評価する。
- (5) 文化に対する評価は、断片的な知識を測定するよりは、「意思疎通基本表現」と関連した外国文化の理解度に重点を置いて評価する。

イ. 評価方法

- (1) 聞く
 - (ア) 基本語彙や簡単な表現を理解する能力を評価する。
 - (イ) 簡単な文章や対話を聞き、重要な情報を見つけ出す能力を評価する。
 - (ウ) 簡単な文章や対話を聞き、状況を把握する能力を評価する。
 - (エ) 簡単な文章や対話を聞き、質問に対する答えを見つけ出す能力を評価する。
- (2) 話す
 - (ア) 学習した内容を、ロールプレイを通して表現する能力を評価する。
 - (イ) 自身と関連した内容を簡単に話す能力を評価する。

- (ウ) 絵や写真を見て、簡単に説明する能力を評価する。
- (エ) 学習した対話や文章の内容を聞き、簡単に要約させる。

(3) 読む

- (ア) 日常生活と関連した内容の文章や対話文を、正確に読む能力を評価する。
- (イ) 簡単な文章や対話文を読み、重要な情報を見つけ出す能力を評価する。
- (ウ) 簡単な文章や対話文を読み、テーマ、大意などを把握する能力を評価する。
- (エ) 簡単な文章や対話文を読み、質問に対する答えを見つけ出す能力を評価する。

(4) 書く

- (ア) 簡単な文章や対話文を正確に聞き、書きとる能力を評価する。
- (イ) 日常生活と関連した内容を、簡単に書く能力を評価する。
- (ウ) 自身と関連した内容を、簡単に書く能力を評価する。
- (エ) カード、日記、手紙、電子メールなどの形式を通して、日常的なテーマについて文章を作成する能力を評価する。

(5) 文化

- (ア) 外国の人々の日常生活文化を理解しているかを評価する。
- (イ) 教科書で扱った文化的内容と関連した資料を探し、発表させたり提出させたりする。
- (ウ) 教師との面談、発表、生徒相互の対話などを通して、外国の文化に対する理解度と態度などを評価する。